

RI 2790地区指導者育成セミナー

RI戦略計画

ガバナー補佐・クラブ研修リーダーの
役割と実践

RI2008～09年度ガバナー
習志野中央ロータリークラブ
崎山征雄

自己紹介

- 名前: 崎山 征雄
- 年齢: 昭和16年1月3日生
- 2008~09年度ガバナー(RI2790地区)
- 当該年度RI会長: 李 東建会長(韓国)
- 当該年度RI理事: 小沢一彦PDG
渡辺好政PDG(D2690)
- 2014~15年度 D2790 研修リーダー

基礎編

ロータリーの奉仕活動を考える上で必要な基礎的知識

(ロータリーの歴史の理解)

◆ **第一期(基礎形成期)**: 1905年～1947年
ポールハリス逝去まで

◆ **第2期(発展期)**: 1947年～1978年:
1945年に第二次世界大戦が終結。加盟国
復帰。WCSプログラムの開始、ライラセミ
ナー、ローターアクト、インターアクトの創設、
3Hプログラム、

◆ **第3期(成熟期)**: 1978年 ～2005年
ポリオプラスの開始、女性会員の入会、
DLP,CLPの導入 ロータリー100周年

◆ **第4期(衰退期)?**: 2005年～

ロータリーの歴史と変遷

1905年 ロータリー創立

一業種一人・親睦

1906年 シカゴ・クラブ定款制定

相互扶助・親睦

1907年 シカゴ・クラブ定款改正：変化

社会奉仕概念の導入(ドナルド・カーターの入会)

1907年 ポール・ハリス会長就任

会員増強、クラブ拡大、
地域への奉仕活動

公衆便所設置運動

社会奉仕活動の実践

1908年 チェスリー・ペリー（ロータリーの建設者）
アーサー・シェルドン（職業奉仕理論の提唱者）
二人の入会

ポール・ハリス会長辞任

親睦派と奉仕派の論争：危機

1910年 全米ロータリー・クラブ連合会の誕生
奉仕理念の追求・クラブ拡大

1911年 The National Rotarian 誕生
1月に機関誌第1号
→1912年 The Rotarian

1911年 ロータリー・モットーの採択
一般奉仕概念の制定

1912年 ローターリー・クラブ国際連合会に改称
1910年カナダ（米国外初）
ウィニペグRC誕生

模範的クラブ定款5ヶ条

クラブ管理の標準化

1915年 ローターリー倫理訓の採択

職業奉仕基準の確立

標準クラブ定款制定

クラブ管理の標準化

1916年 ローターリー通解発刊

ロータリー運動の標準化

1917年 アーチクラフ基金創設

ロータリー財団の始まり

1920年 日本最初の東京RC誕生

創立会員25名（登録番号855）

1921年 米国外で初の国際大会

スコットランド; エジンバラ

国際奉仕の綱領化

国際奉仕概念の制定

国際ロータリー(RI)に改称

RIもRCも同一綱領

1922年 クラブ定款・細則の改正

クラブ管理の抜本的改正

1923年 決議 23-34採択:

奉仕活動の原則の確立

1927年 目標設定計画の採用

四大奉仕への転換

1934年「四つのテスト」初めて発表

1943年ロータリーで採用

1939～1945年 第二次世界大戦終結

加盟国の復帰

1962年 WCSプログラム導入

世界社会奉仕活動開始

1966年 WCS財政援助制限撤廃

金銭的援助の緩和

1978年 3-Hプログラム：**変化**
RI 主動型の大規模奉仕活動

1986年 ポリオプラス正式に発足
2005年ポリオ撲滅宣言

1987年 職業奉仕に関する声明
職業奉仕概念の変更

1989年 女性が初めてロータリーに入会許可
RI が性的差別撤廃

1991年 国際ロータリーの使命変更
団体奉仕活動の提唱

1992年 決議92-286採択

社会奉仕基準の改正

1994年 西半球がポリオの無発生地域に

1998年 ロータリーセンター設置

2002年1期生入学

2000年 西太平洋地域がポリオ無発生宣言

2001年 D L Pの採用：会員増強に変化

2004年 C L Pの導入：クラブ強化へ変化

2005年 ロータリー創立100周年記念

2007年 **会員資格条件の緩和**:ロータリー財団
学友、地域社会のボランティアリーダー
(**職業分類の緩和**)

2010年 第5の奉仕部門(新世代奉仕)の制定
2010年 研修・リーダーシップ委員会の設置を
クラブに奨励する

2010年 アーリーアクトクラブ(**12歳未満の子供**)
の承認の検討

2010年 E-クラブの設立許可(**サイバークラブ**)

2010年 インナー・ホイールの認証の検討

2013年 サテライト(**衛星**)クラブの認証

★ロータリー奉仕活動の大きな転換期

1962年 WCS(世界社会奉仕活動)

物質的供与の開始

1966年 WCS財政援助制限撤廃

金銭的援助の緩和

1978年 3-Hプログラム

R I 主動型の大型奉仕活動

1986年 ポリオプラスが正式に発足

国連・WHOとの連携

2010年 新長期計画発表

2013年 財団夢計画発表

世界平和、健康、教育

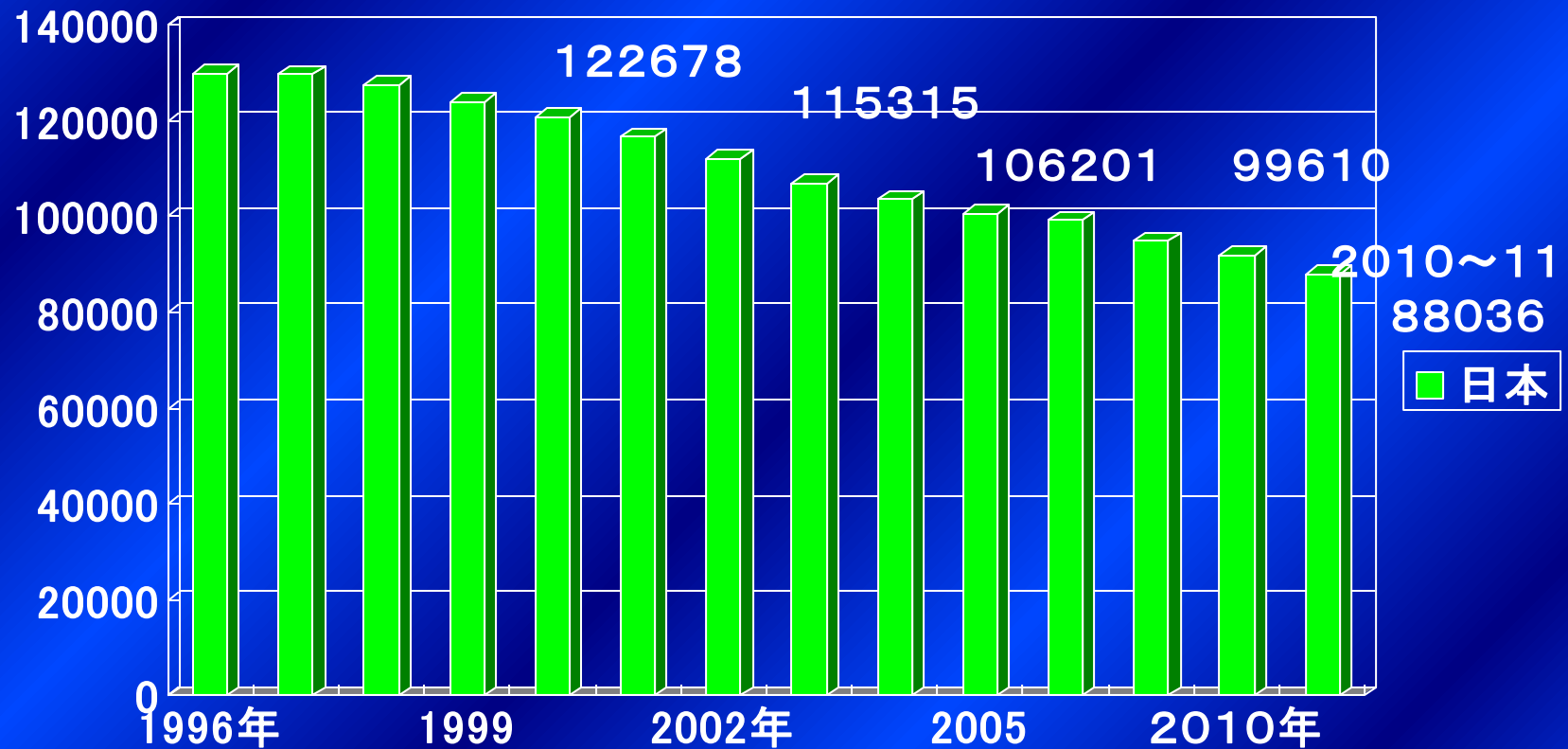
ロータリー100周年に向けて 国際ロータリーの目標でしたが結果は

- 1、RIはロータリー100周年に向けて会員数150万人に増強⇒結果122万人
- 2、世界で良いことをする一番大きな奉仕団体としてノーベル賞に輝く⇒未
- 3、ポリオ撲滅を完遂する⇒もう一息いい線いってる

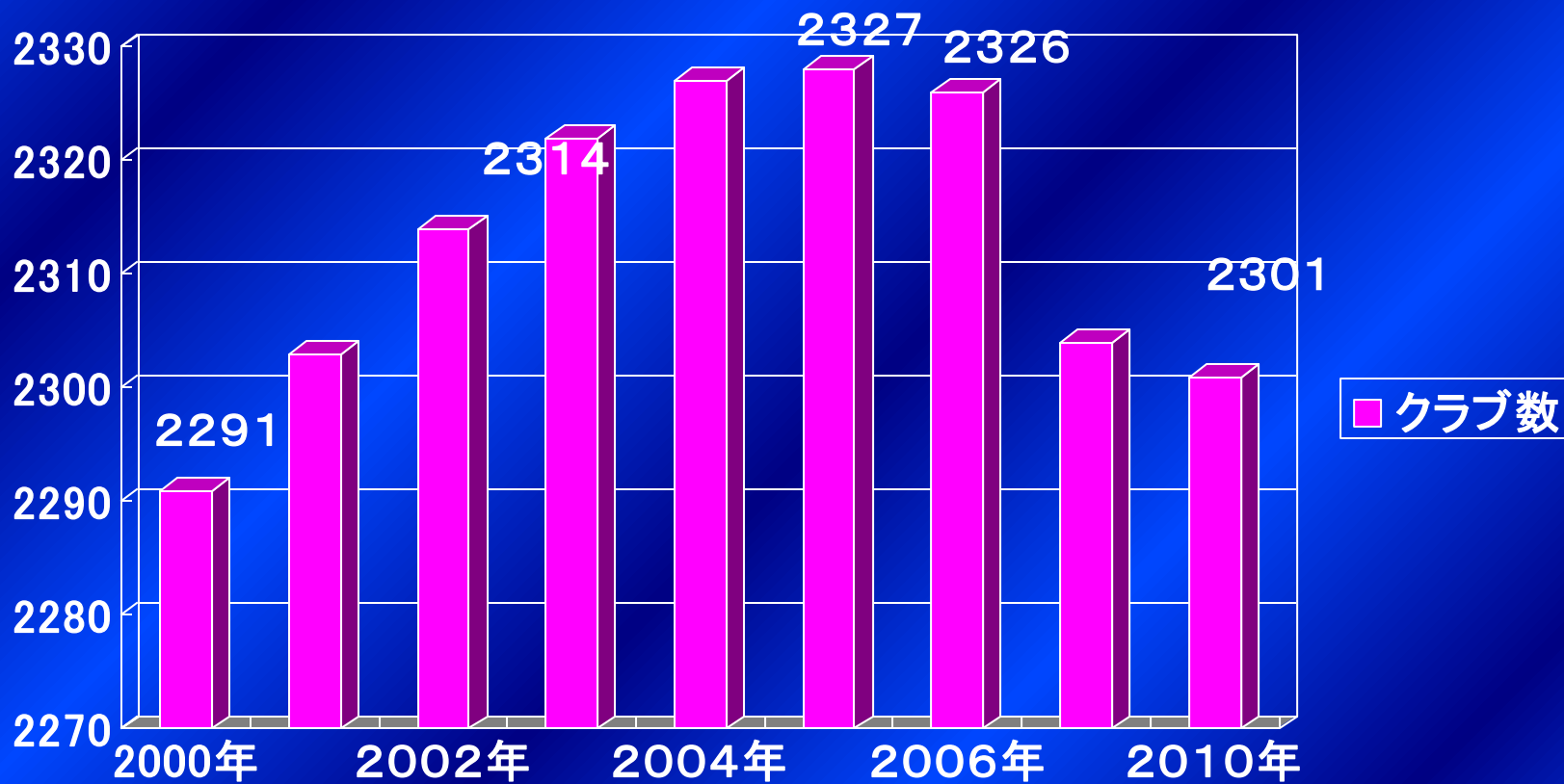


会員数増加、クラブ拡大⇒DLPの地区へ導入
⇒会員減、クラブ弱体⇒CLPの提案

過去14年間の日本の ロータリー会員数の推移



日本のクラブ数

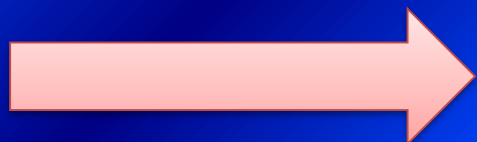


ロータリー財団の担い手は？

ロータリーの果実を食する国が増え、
果実を栽培する国が疲弊している
増えるのは、新興国のロータリアンで、
成熟期に入った先進諸国は、徐々に
衰退している（鳥居 滋PDG2690地区）

国際社会の現状は？

- ◆地球の年齢は46億歳
 - 世界の人口は69億人(2014年に70億人超)
 - 1分間に140人生まれる
 - 1日:20万人生まれる
 - 1年:8千万人増加
- ◆ 2025年の人口:78億人
 - 2050年の人口:92億人
- ◆地球のキャパシティーは80億人



人口爆発

世界の現状

- 1年に**6千万人**が亡くなり**1億4千万人**が産まれる
- 毎日避けることができる原因で命を落とす**5歳未満**の子供の数は**3万人**を超える。
- 毎年**1千万人**の子供たちが**5歳の誕生日**を迎えることなく死んでいる。
- 毎年**900万人**が餓死している
- 世界中で**92%**の人が食べ物に困っている
- **8%**(**6億2000万人**)の人だけが食が足りている
(**飽食の日本人**)

- 世界人口の**6分の1**は読み書きができない。
- きれいな水のない人が**26億人**いる。
- 水道の水の飲めるのは世界で**7カ国**
- 学校に行ったことのない子供が**1億4千万人**。
- 毎年、**250万人**の子供たちが武力紛争で亡くなるか、兵士として徴兵されている。
- 毎年**200万人以上**の子供たちが売春のため、または奴隷として売られている

人口爆発

- 地球全体の環境破壊 → 自然環境の破壊
- 資源の枯渇



食糧難(アフリカ諸国)

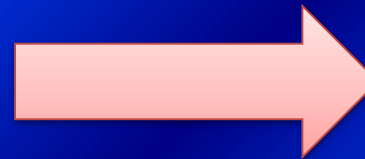
貧困を原因とする地球紛争が勃発



過密な人口と飢えと貧困による騒乱の時代

これらの問題を解決するためにはどうすれば良いか？

- **環境問題**：気象変動（地球温暖化対策、CO2削減、エコロジー）
- **人口爆発**：食料難、産児制限

 **教育**

- **紛争**：民族、政治、経済



貧困と飢餓

ロータリーの取り組み

活動の強調事項



貧困と飢餓救済

水(健康)

識字率向上(教育)

グローバル補助金： 6つの重点分野

<親善と平和>

1. 平和と紛争防止/解決

<教育>

2. 基本的教育と識字率向上

<貧困の緩和>

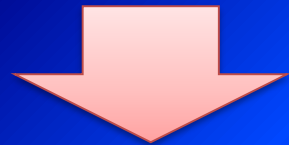
3. 経済と地域社会の発展

<健康>

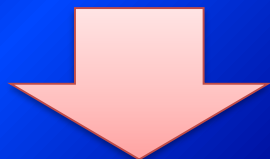
4. 疾病予防と治療
5. 水と衛生設備
6. 母子の健康

※重点分野は9年ごとに見直されることになっています

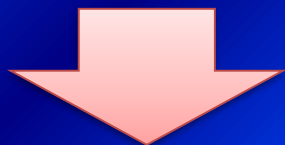
★ますますロータリーに対する要求が増加している



★より一層の資金提供をしていかなければならない



★しかし、私たちの善意にも限界があり、自分の足元を見つめなおさなければならない



★支援活動をどうするか？ **一簡素化・再編成**

前年度 R I 理事会での協議事項

1, RI戦略計画の三大目標

a) クラブのサポートと強化

会員の勧誘と維持

b) 人道的奉仕の重点化と増加

新世代奉仕プログラムなど

ロータリーの6つの重点分野

c) 公共イメージと認知度の向上

イメージとブランド認知を調和させる

職業奉仕を強調するなど

2, 戦略計画を地区やクラブレベルで作る

16項目の中からどの項目を一年目に実行するか目標、実施者、進め方、評価方法などを決める

3, RIのプログラムとして世界社会奉仕(WCS)とロータリー・ボランティア・プログラムが2011年7月1日より無くなる。財団の6つの重点分野やロータリー・トレーニング・チームに変わる

前RI理事 黒田正宏PDG資料

RI戦略計画委員会の経過

- 2002～03年 理事会はRI長期計画を提案し、ロータリアンを動員して、全地域のロータリー活動の現状を調査。
- 2004年6月 規定審議会はRI長期計画委員会の設置を承認。6年任期の6名の委員で構成。3年毎の見直し。
- 2007年1月 事務総長がRI長期計画部局を創設。
- 2007年4月 規定審議会は長期計画の進行状況と現状を確認。
- 2007年6月 理事会はRI長期計画の使命、ビジョン、モットー、中核となる価値観、そして7つの優先項目を承認。
- 2009年7～8月 3年毎の国際ロータリー活動及び意識調査。
- 2009年11月 RI理事会は調査結果に基づく長期計画委員会の新長期計画を承認。
- 2010年7月 2010～2013年新長期計画発効。
- 2011年11月 長期計画⇒RI戦略計画に変更

長期計画の7項目と目標

(2007－2010年度)

- 1、ポリオの撲滅
- 2、ロータリーに対する内外の認識と公共イメージを高める。
- 3、他者に奉仕するロータリーの力の増大を図る。
- 4、量的にも質的にも会員組織を世界的に拡大する。
- 5、ロータリー独自の職業奉仕への取り組みを強調する。
- 6、ロータリー組織内の指導的才能を最大限に活用し、育成する。
- 7、組織全体を通じて継続性と一貫性を保つために、長期計画の手順を完全に実施する。

2010年・国際ロータリー規定審議会

<採択決議案10-01>

研修・リーダーシップ委員会の設置をクラブに奨励 するようRI理事会に要請する件

国際ロータリーの決議により、国際ロータリー理事会は、クラブ・リーダーシップ・プランが推奨する常任委員会に加えて、研修・リーダーシップ委員会を設置するようクラブに奨励することを検討するものとする、新会員も古くからの会員も含め、RIならびにロータリー財団の目標、規則、リソースに関する知識が欠けているローリアンが多くみられる。これはクラブが徹底した定期研修を継続的に提供していないことに起因している。さらにクラブ会長などと言ったクラブの責任を引き受ける前に、指導力を改善する機会が与えられていないローリアンが多すぎる。

クラブの現状を省みる

クラブは...どうでしょうか？

- 奉仕活動を行っていますか
- 会員は積極的なロータリアンですか
- 地域社会の多様性を反映していますか
- 人々の心に残るプロジェクトやプログラム、会合を提供していますか
- 規則が厳しすぎたり、縛られすぎていませんか
- 参加や出席を重視していますか
- 皆さん楽しんでいますか
- 新会員が親しみやすい雰囲気を作っていますか

RI戦略計画(2010～2013年)

ビジョン

私たちは、世界中の地域社会における
人々の生活の改善に貢献するため、活発で
行動力のあるクラブから成り、人々から選ばれる奉仕組織である。

標語：超我の奉仕

クラブのサポートと強化

- ・ クラブの刷新性と柔軟性を育てる
- ・ 五大奉仕部門の全部門における調和の取れた活動を行う
- ・ 会員の多様性を増進する
- ・ 会員の勧誘と維持を改善する
- ・ リーダーを育成する
- ・ ロータリーを伸展させる
- ・ クラブと地区における長期計画の立案を奨励する

人道的奉仕の重点化と増加

- ・ ポリオを撲滅する
- ・ 以下の分野における奉仕の持続性を高める
 - 青少年と青年のプログラム
 - ロータリー財団の6つの重点分野
- ・ 協力組織とのパートナーシップおよび他組織との協力関係を拡大する
- ・ 地元と海外の地域社会で多大な成果をもたらすプロジェクトを創造する

公共イメージと認知度の向上

- ・ イメージとブランド認知を調和させる
- ・ 行動を主体とした奉仕を推進する
- ・ 中核となる価値観を推進する
- ・ 職業奉仕を強調する
- ・ クラブにおけるネットワークづくりの機会、ならびにクラブ独自の主な活動について周知を図るようクラブに奨励する

中核となる価値観 奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ

使命

私たちは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進する。

優先項目と目標

| クラブのサポートと強化 | 人道的奉仕の重点化と増加 | 公共イメージと認知度の向上 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">□ クラブの刷新性と柔軟性を育てる□ 五大奉仕部門の全部門における調和の取れた活動を行なう□ 多様性を増進する□ 会員の勧誘と維持を改善する□ リーダーを育成する□ ロータリーを伸展させる□ クラブと地区における長期計画の立案を奨励する | <ul style="list-style-type: none">□ ポリオを撲滅する□ 以下の分野における奉仕の持続性をたかめる<ul style="list-style-type: none">・ 青少年と青年のプログラム・ ロータリー財団の6つの重点分野□ 協力組織とのパートナーシップおよび他組織との協力関係を拡大する□ 地元と海外の地域社会で多大な成果をもたらすプロジェクトを創造する | <ul style="list-style-type: none">□ イメージとブランド認知を調和させる□ 行動を主体とした奉仕を推進する□ 中核となる価値観を推進する□ 職業奉仕を強調する□ クラブにおけるネットワークづくりの機会ならびにクラブ独自の主な活動について周知を図るようクラブに奨励する |

優先項目と目標

クラブのサポートと強化

- クラブの刷新性と柔軟性を育てる。
- 五大奉仕部門の全部門における調和の取れた活動を行なう。
- 多様性を増進する。
- 会員の勧誘と維持を改善する。
- リーダーを育成する。
- ロータリーを伸展させる。
- クラブと地区におけるRI戦略計画の立案を奨励する。

人道的奉仕の重点化と増加

- ポリオを撲滅する。
- 以下の分野における奉仕の持続性をたかめる。
 - ・ 青少年と青年のプログラム。
 - ・ ロータリー財団の6つの重点分野。
- 協力組織とのパートナーシップおよび他組織との協力関係を拡大する。
- 地元と海外の地域社会で多大な成果をもたらすプロジェクトを創造する。

RIの端的な要求は

- 1、会員増強**：大勢で行いパワーが無いとクラブ活動そのものの効果が出てこない
- 2、奉仕活動**：5つの奉仕活動をフルに利用しよう
- 3、財団支援**；世界で良いことをしよう
ロータリアンが力を合わせて世界平和のために働こう
- 4、リーダーの育成と広報**

2014—15年度日本地域別 会員増強計画（成果測定指標）

日本第1.2.3ゾーン 理事2名、リーダー1名、
コーディネーター3名

- 1、**会員増強：2014年6月 90,000 名**
⇒2015年6月目標 94,000名
- 2、**会員維持の強化：年間退会者2012-13年度7,300名、
2013-14年度6,500名 2014-15年度は4,500名を目標**
- 3、**女性会員の増強：2013年6月4,454名 2014年6月
4,750名 2015年6月5,200名を目標**
- 4、**新クラブの拡大：2012-13年度7クラブ、2013-14年度
7クラブ、2014-15年度は10クラブ誕生目標**
- 5、**他クラブへ会員候補者を紹介：遠隔地へ住む友人を
地元クラブへ紹介する事を日本全体で進める**

ロータリー活動を熟知
して、効果的なクラブ
として変身するには？
(実践的で活発なクラブ)

効果的なクラブ

会員基盤を
維持し、
増加させる

成果あふれ
る奉仕プロ
ジェクトを実
施する

ロータリー
財団を支援
する

クラブレベ
ルを超えた
指導者を育
成する

クラブ・リーダーシップ・プラン

5大奉仕部門

DLPとCLP

地区リーダーシップ
プランの強制導入

2002年



クラブ・
リーダー
シッププランの導入推奨

2005年

CLPにおける9段階の実効策

1. 効果的なクラブの要素に取り組むRI戦略計画の立案。
2. 「効果的なRCとなるための活動計画の指標」を使用し、クラブの長期計画と調和した年次目標を設定する。
3. 会員を計画過程に参加させ、ロータリーの活動に関する情報を伝えるためのクラブ協議会を実施する。
4. クラブ役員、会員、地区指導者の間の明確なコミュニケーション(意思の疎通)を保つ。

5. 一貫した引継ぎ計画を含め、**クラブの指導者の継続性を確保する。**
6. クラブ委員会構成とクラブ指導者の役割と責務を反映させるべく、**クラブ細則を改正する。**
7. クラブ会員間の親睦をさらに深めるような機会を提供する。
8. 会員全員がクラブのプロジェクトや業務に活発に関与するようにする。
9. 包括的な研修を立案し、実施する。

★地区リーダーシップ・プラン(DLP)
地区研修リーダー(*District Trainer*)

★クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)
クラブ研修リーダー(*Club Trainer*)

なぜ、リーダーシップが必要か！

私たちがロータリアンとして成長し、充実した活動するためには、ロータリアン一人一人が、ロータリーを本当に理解し、自発的なモチベーションを高め、コミュニケーションを活発にして、クラブの活動につなげて行く必要がある。

クラブのリーダー

- 1、**クラブ会長とクラブ研修リーダー**はその年度のクラブの代表者
- 2、会長は、クラブの指導者として、クラブと理事会の会合の議長を務め、ロータリーの奉仕プログラムの推進を監督します。
- 3、**クラブ研修リーダーは、**
 - ① 会長年度のクラブ研修を充実し、年次目標の達成を支援します。
 - ② 長期的な視野で、会員の指導力開発を推進します。（指導者の育成と継続性の確保）

クラブ研修リーダーの任命

- 1、クラブ研修リーダーの任命は、クラブ会長エレクトが行う。他の役職と兼任も可。
- 2、任期 クラブ研修リーダーの任期は1年。
(連続で就任できる任期は3期まで)
- 3、資格要件 : 資格は特に要しないが、研修・教育の技能を持ったパストガバナー、パスト会長、理事会メンバー、ロータリー情報委員会委員長などが望ましい。

クラブ研修リーダーの役割

- ①クラブ長期計画の立案
- ②年次目標の設定
- ③クラブ協議会での情報提供
- ④クラブ内および地区・クラブ間の意思疎通を図る
- ⑤クラブ指導者の育成と継続性の確保
- ⑥委員会構成とクラブ細則の変更
- ⑦親睦の機会を設ける
- ⑧奉仕プロジェクト・委員会活動への積極的参加
- ⑨包括的な研修を行う

クラブ理事会

クラブ理事会

クラブ
管理運営

クラブ
広報

会員増強

奉仕
プロジェクト

ロータリー
財団

*毎年、必要に応じてこのほかの委員会を任命することが可能

クラブ理事会

クラブ理事会

クラブ
管理運営

クラブ
広報

会員増強

奉仕
プロジェクト

ロータリー
財団

ガバナー補佐

広報委員会

会員増強
委員会

地区
プログラム
委員会

ロータリー
財団委員会

クラブ・リーダーシップ・プランにおける地区の支援

そんなことを簡単に
言うけどクラブ内
では実際にどうすれ
ば良いのですか？

D2790某RCの例

クラブ理事会

```
graph TD; A[クラブ理事会] --- B[クラブ管理運営]; A --- C[クラブ広報]; A --- D[会員増強・維持]; A --- E[奉仕プロジェクト]; A --- F[財団・米山・新世代];
```

クラブ
管理運営

クラブ
広報

会員増強
・維持

奉仕
プロジェクト

財団・米山・
新世代

2007年にCLP導入

クラブ管理運営部門

- 1、親睦家族委員会
- 2、プログラム委員会
- 3、出席・管理委員会

クラブアカデミー部門

- 1、ロータリー情報委員会
- 2、ロータリー研修委員会
- 3、広報・会報・IT委員会

アカデミー部門の特徴

- 1、理事・委員長・役員にはPDG,パスト会長を選任
- 2、継続性をもたせた単年度毎の研修事業を企画
- 3、5年後、10年後のクラブの将来像を見据えて
さまざまな企画を提案
- 4、規定審議会、ロータリー最新情報、地区活動を
広報
- 5、WCS活動、マッチング・グラントを国際奉仕委
員会と合同で企画
- 6、奉仕活動の掘り起こしを社会奉仕委員会と合同
で企画

まとめ

クラブの長期計画策定のために

1、目標設定：世界や日本、そして地区のロータリーの実情を良く理解しているPDG,パスト会長が中心となって、クラブの将来像をイメージする

きっかけ：5年ごとにクラブの周年行事を活用する

2、いろいろなことに手を出すのではなく、クラブの資金、会員数を考慮して的を絞った活動計画を作成する：後で問題が起こらないようにする

3、人材育成のためには、クラブから毎年少なくとも数名の地区役員を送り出して研修させ、ガバナー補佐、ゆくゆくはガバナーを選出する：リーダー

- 4、クラブ会員の意識を向上(レベルを上げる)させるため、**日々の研修**を怠ってはならない
(自クラブの歴史、職業奉仕理論、社会奉仕理論、ロータリーの哲学(シェルドン)、決議23-34、規定審議会の採択議案の研修は必須)
- 5、米山記念奨学生、財団奨学生、国際親善奨学生を例会に呼んでの卓話：**感動を与える**
- 6、自クラブから規定審議会へ上提案を出すぐ
らいの**意気込み**が必要
- 7、クラブ会員一人一人にテーマを与え、例会時
間に5分間スピーチを行わせる：**興味**

- 8、奉仕活動、海外への旅行などで行動するときにはできるだけ多くの会員に声をかける
- 9、遊ぶ要素、楽しみを入れなければ長続きしない：**楽しくなければ継続できない**
- 10、数は力なり、会員数が多くなければ活発な活動はできない(資金面等)：**会員増強**
- 11、自分たちの成果を地区大会や地域で宣伝する(自慢しすぎはやっかみを生む)：**広報**
- 12、チャンスは絶対逃さない：身近な所に奉仕の芽が落ちている

3つの基本重点項目

- 1、**クラブ目標の設定**：自クラブの5年後、10年後のあり方(将来像)を必ず作成する(目標がしっかりしなければどのような活動をして良いかわからない)
- 2、**組織体制の強化**：**研修機能の充実**：毎週行われている例会の中身が大切。例会がつまらなくて、やる気がでない。研修を積まなければロータリーは理解できない
- 3、**リーダーの育成**：地区に役員を派遣し、クラブのリーダーとなるべき人材(ガバナー補佐、ガバナー)の育成

クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の要点

1. 自分のクラブの活動歴史と特徴を理解する。
2. 地域や国際社会のニーズを的確に把握する。
3. 的確な年次目標と長期計画を立てる。
4. クラブの委員会はその特徴と目標によって決定する。
5. 目標設定及び活動にはクラブの全員が参加し、意思疎通を図る。
6. 首尾一貫した系統的な研修及び教育プログラムを提供する。
7. すべての会員が積極的に参加し、親睦の機会を作る。
8. クラブの奉仕活動の結果の広報活動は積極的に行う。

ビチャイ・ラタクル

元RI会長の言葉

「ロータリーのリーダーは変わりますが、
ロータリーのリーダーシップは変わりません。

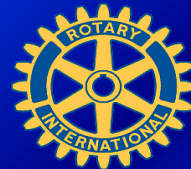
・・・ロータリーのリーダーシップは継承されて
いかなければならないのです。」

2011.10.1講演～ロータリーの真の強さより

ロータリーのリーダーシップ のあり方



- ① ロータリーの組織運営は会員の平等・対等な関係が前提になります。企業のように権限を持ったトップが指示・命令して動く組織ではありません。
- ② クラブの組織力を高めるには、会員全員の合意形成・対話・協力が大切です。



- ③ 毎年交代するクラブ指導者は、会員のモチベーションを高めることと、指導力の継続性を意識することが大切です。
- ④ リーダーは固定的な役割でなく、場面によって変わります。会員それぞれがその個性と能力を発揮できるよう工夫した運営を心がけましょう。

これからのリーダーの姿勢

- ① 「リーダーは、
役職でなく役割である」
- ② 「上から目線のリーダーシップでなく
下から支えるリーダーシップ」
- ③ 「自分の一回しかない人生に対する
リーダーシップ」

「団結力のない慈善は、役に立たないものです。」

- 元国連難民高等弁務官、ロータリー財団奨学生 緒方貞子氏がこのように話されています。

「ただ慈善ということであれば、一部の人にしか援助が伝わらない。そうすると社会が崩れていくことになります。これは、ただ道徳的な価値だけではなく、私たちが本当に、世界的な脅威に対処していくための唯一の方法ではないかと思います」

- この言葉は、私が何故ロータリーに入会しているのかを明確に示してくれた素晴らしい言葉であります。

最後のお願い

ロータリークラブを発展させ
ましょう。先人から貰ったも
のとは思わずに、次世代
からの預かりものとして今
を考えましょう。

終了

世界の現状は？

◆地球の年齢は46億歳

世界の人口は66億8533万人

1分間に140人生まれる

1日:20万人生まれる

1年:8千万人増加

◆2025年の人口:78億人

2050年の人口:92億人

◆地球のキャパシティーは80億人

人口爆発



世界の現状

- 1年に6千万人が亡くなり1億4千万人が産まれる
- 毎日避けることができる原因で命を落とす5歳未満の子供の数は3万人を超える。
- 毎年1千万人の子供たちが5歳の誕生日を迎えることなく死んでいる。
- 毎年900万人が餓死している
- 世界中で92%の人が食べ物に困っている
- 8%(6億2000万人)の人だけが食が足りている(飽食の日本人)

- 世界人口の6分の1は読み書きができない。
- きれいな水のない人が26億人いる。
- 学校に行ったことのない子供が1億4千万人。
- 毎年、250万人の子供たちが武力紛争で亡くなるか、兵士として徴兵されている。
- 毎年200万人以上の子供たちが売春のため、または奴隷として売られている

人口爆発

- 地球全体の環境破壊 自然環境の破壊
- 資源の枯渇



食糧難

貧困を原因とする地球紛争が勃発



過密な人口と飢えと貧困による騒乱の時代

これらの問題を解決するためには？

- **環境問題** (地球温暖化対策、CO2削減、エコロジー)
- **人口爆発**: 産児制限 教育 →
- **紛争**: 民族、政治、経済

↓

貧困と飢餓

私達が取り組まなければならないこと

ボランティア活動の強
調事項



貧困と飢餓救済
水(健康)
識字率向上

<第3の危機>

第二次世界大戦

1937～1942年

世界33カ国 484 R C 解散

16,700 会員を失う

クラブ数と会員数（1937年～1945年）

| 6月30日 | クラブ増減 | 会員増減 | 加盟国 |
|-------|-------|--------|-----|
| 1937 | 331 | 13,000 | 112 |
| 1938 | 379 | 17,998 | 115 |
| 1939 | 253 | 8,889 | 143 |
| 1940 | 99 | 3,904 | 149 |
| 1941 | -8 | -2,375 | 143 |
| 1942 | 11 | -3,053 | 137 |
| 1943 | 105 | 1,326 | 138 |
| 1944 | 39 | 18,224 | 136 |
| 1945 | 228 | 19,299 | 137 |

世界社会奉仕 (WCS) World Community Service

1962年 アジアから
最初の R I 会長に就任した
ニッティシ・ラハリー (インド) が
提唱
新しい形の国際奉仕の実践活動

ニッティシ・ラハリー R I 会長

「世界中のどこかの片隅に、
一人でも不幸な人がいる限り、
我々ロータリアンは永久に幸せに
なることが出来ない。」

心の中に火を燃やそう

“Kindle the spark within”

1963年

カール・ミラー会長

数名のロータリアンが選ばれて

RIの委嘱を受け

夫々南北の問題を解決するために

世界の各地域に派遣された

①或るロータリアンは、
南米のホンジュラスで、
農業用灌漑の技術を教え

②或るロータリアンは、
初等教育の問題を担当

③日本からは、

姫路の齋木亀次郎氏
(1968-69年DG)

インドのデリーに行って

6週間の中小企業研修を実施

しかし、これらの試みは失敗

何故失敗したか

- ①参加した人達の心構えの問題、
先進国の人が開発途上国の人に、
慈悲心を持って臨んだのではないか、
同じ目線の高さで臨まなかった

②言語の障害

③風俗や習慣、物の考え方の
相違があった

そこで、RIは、

この方向をあきらめ、

団体奉仕、金銭奉仕を

主軸とする**WCS**に転向した

即ち、1966年
RIはWCS活動に対する
例外的措置

1929年：ダラス大会の決議
財政的援助要請の制限条項

[決議 29-12]

(他のクラブ、他の地域にお金を補助することは
禁じられていた)

撤 廃

金銭的援助を可能にした

そして、R I の仲人機能
(ニーズを要求するクラブと
提供するクラブの登録)
を使った
これが現在の

WCS (世界社会奉仕)

それ以来、

ロータリー財団の活動が

募金活動に置き換えられ、

1978年 **3-Hプログラム**

R I 主動型の奉仕活動

1986年 **ポリオプラス正式に発足**

2005年ポリオ撲滅宣言

1987年 **職業奉仕に関する声明**

職業奉仕概念の変更

1989年 **女性が初めてロータリーに入会**

R I 定款の変更

1991年 **国際ロータリーの使命変更**

団体奉仕活動の提唱

更に、

1978年の「3Hプログラム」

1985年開始「ポリオプラス」

RI主導型の大型プロジェクト志向に
推移する傾向が強まっている

1992年 決議92-286採択
社会奉仕基準の改正

1994年 西半球がポリオの無発生地域に

1998年 ロータリーセンター設置
2002年1期生入学

2000年 西太平洋地域がポリオ無発生宣言

2001年 Cyber Rotary Club (変化)
地区リーダーシッププラン採用

2004年 クラブリーダーシッププラン導入 (変化)

2005年 ロータリー創立100周年記念

今ロータリーに必要なことは何なのか

- 現状を維持する**改善**なのか
- 少し良くする**改革**なのか
- まったく新しいものにする**革新**なのか

陰徳の美学

- ◆ 過去のロータリアンは、陰徳の美学を追及するあまり、その活動内容を世間一般に広報することは、この美学に反すると考えてきた。
- ◆ しかし、100年が過ぎ、ロータリーそのものが衰退をきたしてきている事実は、放置するべきものではない
- ◆ 今、地域社会への貢献をはっきり声を大にして言うべき時がきたのである

団結力のない慈善は、役に立たないものです。

ただ慈善ということであれば、一部の人にしか援助が伝わらない。そうなると社会が崩れていくことになります。これは、ただ道徳的な価値だけではなく、私たちが本当に、世界的な脅威に対処していくための唯一の方法ではないかと思います

元国連難民高等弁務官

緒方貞子

サイバー社会でのロータリーの役割とは

- 家族、地域社会でのつながりを維持
- 老若男女を取り込んだ年齢という垣根を取り払った組織活動
- 地域社会での職業倫理規範の推進
- 社会モラルの啓蒙と実践
- 国際化社会への対応と交換留学の実践
- 次代を担う若者の教育と地域の歴史の継承

これからのロータリーのあり方は？

- ロータリーの魅力とは？

1、自分の利益に直接結びつくことが見えやすい異業種交流を活発化



2、交友関係の強化にかかわるような身近な活動と一緒に行動

3、その後、地域に密着した活動に多くの会員を巻き込んでいく

社会奉仕活動への積極参加



これからのロータリーのあり方は？

- 4、地域に密着した活動単位クラブごとの**独自の活動**を探る 
- 5、会員の量的拡大を考える前に、現在のロータリアンの**質を高める**
- 6、ロータリー運動の社会への啓蒙(**広報**)
- 7、奉仕活動の継続には強力なカンフル剤は無い、地道な活動と組織の再構築が大切である。 **看却下** 

ロータリークラブの原点

- 「親睦」を前提に「職業奉仕の理念」を下にした「奉仕の心」の形成である。
「自分たちでクラブの計画を作り、目的を決め、自分たちの夢に向かって進むこと」
- 「組織の成長と親睦の深まり」を得ること
- 「理想を語る事は現実を変える力となる
- 現実の存在を正しく認識して未来に繋ごう

ロータリーの理論

- ロータリー思想、哲学である
- 具体的にはクラブという組織を介して学ぶ「奉仕の心の形成」であり
- その結果は親睦につながる

真のロータリアンとは？

自分の職業を通じて、その倫理性を高め、地域に根差した奉仕活動を実践し、次代を担うことのできる人間を育成する。

ロータリーに何を求めるのか？

ロータリーに対して何を求めるか？

あなたがロータリーに対して何を
するかによるのです(出席と親睦)

神守源一郎PDG

「デモクラシーとヒューマニズム
の土壌のないところに、
ロータリーはありえない」

クラブ研修リーダーの役割

会員増強(退会防止)

- 1、ロータリーの理論、哲学、歴史を学ぶ(ロータリーとはいったい何をする団体なのかを理解)
- 2、クラブの歴史、奉仕活動を理解してもらう(今まで先輩方が社会で行ってきた奉仕活動について)
- 3、今の自分たちは将来に向けて何をすべきなのか

研修リーダー (Club Trainer)

- RIは、各RCに「クラブ研修リーダー」(Club Trainer)の**任命を推奨**。
 - 2006年11月RI理事会会合 決定104号
 - 『ロータリー章典』 Rotary Code of Policies 8.090

目的

クラブ・レベルでの

ロータリー研修を

強化・充実

クラブ研修リーダーの任務と責務

1. **クラブの年間研修計画を立案し、実施・監督**
2. クラブ研修リーダーは、すべての研修ニーズが満たされるようクラブ理事会および各種委員会と協力する。
3. **支援とアイデアを得るために、**地区研修委員会、クラブを担当するガバナー補佐、地区ガバナーと協力する。
4. 「クラブ指導力育成セミナー」を計画・実施する。

クラブ指導力育成セミナー

推奨されるテーマ

- 1、クラブのビジョン(あるべきクラブ像)づくり
- 2、効果的な広報
- 3、国際奉仕・新世代奉仕プログラム
- 4、ロータリー財団・米山奨学会のプログラム
- 5、ロータリーの奉仕理念、職業奉仕
- 6、地域問題の解決
- 7、国際ロータリー年次テーマ・強調事項
- 8、その他

研修企画立案 と実施に当たって

1. ニーズの調査

- ①クラブとしての目標
- ②会員が望んでいること

2. 評価(アセスメント)

参加者にアンケートを実施し、今後の計画に反映させる。

3. フォローアップ

実施後、個人指導(メンター)やフォロー研修(半年後、1年後)を計画する。

クラブ研修リーダーと地区行事

新入会員セミナー

五大奉仕セミナー

地区指導者育成セミナー

地区大会

次年度地区研修・協議会

クラブの活性化

- 地区リーダーシッププラン(DLP)2002年から義務的採用
- DLPの延長としてのCLP(クラブ・リーダーシッププラン)の導入奨励2005年から
- クラブレベルでの研修強化

研修リーダー

- 国際協議会：DGEに対する研修リーダー
- 地区レベル：地区研修リーダー
- クラブレベル：クラブ研修リーダー

地区研修リーダー

ガバナーはガバナーエレクトの推薦に基づいて、地区研修委員会の委員長を務める地区研修リーダーを毎年任命すべきである。地区研修リーダーは、必要に応じて地区内の研修会合や研修行事に責任を持ち、ガバナーやガバナーエレクトを補佐して、クラブや地区指導者の研修に当たる責任がある。

ロータリー章典(17.030.3)

- 1、PETS
- 2、地区研修・協議会
- 3、地区チーム研修セミナー
- 4、地区指導者育成セミナー
- 5、ロータアクト指導者育成研修
- 6、クラブレベルの指導者育成研修

適宜、地区内におけるその他の研修会や地区ロータリー財団セミナーおよび地区会員増強セミナーへの二次的な責任を持つ。

クラブ研修リーダー

クラブレベルの研修

クラブ会長エレクトは、次年度に、クラブの研修プランを監督するクラブ研修リーダーを任命することが出来る。クラブ研修リーダーの任期は1年であり、連続して就任できる任期は3年である。

クラブ研修リーダーはクラブの全ての研修ニーズが満たされるよう、クラブ理事会および各種委員会と協力し、また、地区研修リーダー、クラブを担当するガバナー補佐、地区ガバナーの支援を得、協力しなければならない。

ロータリー章典(8.090.1)、(2006年11月、理事会)

クラブ研修の在り方

クラブは**全ての包括的研修プランを作成し実行する。**
特に、新会員のために一貫したオリエンテーションを定期的に実施する。
又、現会員のために継続した教育の機会を提供する。全会員が指導力育成プログラムを受けることが出来るようにすべきである。
クラブ研修指導者は適宜、研究会や地区研修会合に出席すべきである。

(2006年11月理事会、決定104号)

現在、ロータリー章典は、クラブ研修リーダー、クラブ研修プラン、クラブ指導者育成セミナーといったクラブレベルの研修について規定し、活動を奨励している。クラブの研修委員会は、クラブ研修リーダーを中心に、機能的に統一化する必要がある。

- ★ クラブの5年後、10年後を見据えて、地区内で責任あるクラブとして、地区の事業、クラブ内行事に対応する
- ★ 単年度事業・単年度決済を特徴とする
ロータリーの活動は、個人の研鑽には対応できても、クラブとして個人が集まって継続して行う活動に於いては、動きが悪い
- ★ **長期計画**（将来構想の立案とは）、継続する事業活動をどううまく動かすか？

クラブ研修リーダーの戦略

- 1、年度毎に決まっている単年度実施行事はプログラム企画時にあらかじめ予定する
- 2、クラブの周年行事を考え、5年度、10年後にクラブの行うべき活動を話し合っておく
- 3、奉仕活動はチャンスが来たら逃さない
- 4、他人任せにしないで自分から積極的に動く
- 5、失敗を恐れない
- 6、地区とのパイプをしっかりと持ってクラブ活動と連動させる

決議 23-34 とは？

- この決議は、ロータリー運動全般にわたって、奉仕の実践をめぐる、個人奉仕か団体奉仕かに対する長い間の論争に終止符を打ったものである
- RIとクラブとロータリアンの機能を明確化し、ロータリアンとクラブが行うロータリーの諸活動に関する根源的な指針となるもの

奉仕の理想(理念) (Ideal of service)

数多いロータリーの公式文献の中で、
奉仕の理想についてかかれてあるのは
決議23－34の第1項のみ。

決議23－34はロータリーの奉仕哲学を理解する
には必須の教材。